



アキラ氏のプロフィール

1973年頃の生まれで、現在40歳。

生れて間無しに両親と引き離され、ポルポト派の子供グループの中で育てられる。それは将来の少年兵を育成する為。

5歳の時両親はポルポト派によって殺され、その後もそのポルポト派に育てられて、10歳の時には一端の少年兵として実弾入りの銃を持たされ、地雷の埋め方の訓練も受ける。13歳の時ベトナム軍に捕まり、その後はベトナム兵として昨日まで仲間だったポルポト派と戦う事になる。



※イメージ

16歳の時ベトナム軍が国に引き上げたのをきっかけに、今度はカンボジア政府軍に入れられてポルポト派との戦いを続ける。

20歳の時、この国を平和にする為にやって来た国連カンボジア暫定統治機構（UNTAC）の手伝いをするのだが、それが初めての地雷撤去活動であった。それまで心ならずも地雷を埋め続けた為に大勢の人を傷つけ苦しめた事に対する贖罪として、これからの人生はこの地雷撤去活動に賭けようと強く決心したアキラ氏は、それ以降地雷を掘り続けて現在に至っている。

20歳から35歳までの15年間で撤去した地雷、不発弾の数は何と5万個。

その内の 1 割の 5000 個を現在「アキラ地雷博物館」に展示して、世界から訪れる来館者に見て貰い、



地雷の怖さ、戦争の悲惨さを訴えている。

その博物館は 1999 年 26 歳の時、シエムリアップの街から 5、6 キロの場所にオープンしたが、2007 年に現在のバンテアイスレイ遺跡近くに引っ越している。

また地雷撤去活動も、嘗ては単独での作業であったが、2008 年からは NGO「CSHD」を設立して、国の定めた地雷撤去の為のライセンスを取

得し、現在 25 名の隊員を率いて、ここカンボジアにまだ推定 500 万個が埋まっていると言われている地雷の撤去活動を続けている。

また、その地雷撤去活動と博物館の運営に加えて、館内に「リリーフセンター」と言ういわゆる孤児院を設立し、現在 40 名の恵まれない子供たちを養育している。この子供たちは、嘗ては全員が地雷被害者と戦争孤児であったが、現在は生まれつき障害を持った子供、小さい時ポリオを患って手足が不自由な子供、エイズの子供、家が貧しくて親が養育を頼んだ子供、そう言った子供たちを引き取り、学校に通わせ、「リリーフセンター」内の教室で更に教育を施し、子供たちが将来自活出来る様にと力を注いでいる。



博物館来場者に自身の体験を語るアキラ氏